

令和3年度 S S T A 福島支部 & 北海道・東北エリア 授業をつくる・ふりかえるセミナー 実施報告

【実施日時・場所】令和3年7月10日（土）オンライン開催

【参加人数】46名（学生5名，小学校32名，中学校4名，大学2名，指導主事2名，教科調査官1名）

【研修のねらい】

- 鳴川調査官と野口教諭の話聞くことを通して、授業や単元づくりにおいて「子どもの思い」と「教師の願い」を擦り合わせていくことの大切さや難しさを再確認することができる。
- 様々な年代や地域の先生と日頃の授業に関する悩みを語り合うことを通して、授業に対する自分の考え方を深めたり、広げたりすることができる。



北海道・東北エリアの先生方にも参加していただきました！

【研修内容】

① 講演「理科の授業を形づくるもの」(鳴川哲也教科調査官)

鳴川哲也先生の著書「理科の授業を形づくるもの」(東洋館出版社, 2020年)にある、鳴川先生が教諭時代の授業実践を事例に挙げながら「子どもの思い」と「教師の願い」を擦り合わせていくことが授業づくりにおいて非常に大切であることをお話いただきました。

オンラインではありましたが「実際に自然の事物・現象を見せながら話したい!」という、鳴川先生の熱い思いもあり、集気びんの中であろうそくを燃やして炎の揺れを見たり、鳴川先生がご自宅の庭で捕まえてこられたモンシロチョウの幼虫やカマキリを見たりしました。まるで、鳴川先生の授業を受けている子どものように目を輝かせながら話を聞いている参加者の姿が印象的でした。



理科の授業を形づくるもの

炎がゆらゆらしているでしょ!?

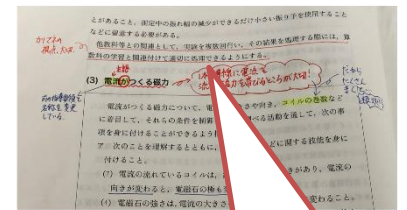
② インTRODクシヨン (福島市立三河台小学校 野口卓也教諭)

鳴川先生の話を受け、今年度教職10年目を迎えた野口卓也先生から、授業をつくったり、振り返ったりする上で大切にしたいことについて具体的な取組みを挙げながらお話いただきました。授業づくりは目の前の子どもの実態を把握することから始まること、学習指導要領や教材の意味をしっかりと理解すること、そして授業で見られた子どもの姿を記録し、同僚と省察していくことの大切さを改めて確認することができました。また、鳴川先生も野口先生も「子どもの思い」と「教師の願い」を擦り合わせることに悩みながら、日々授業実践をされており、「自分も悩みながらやっていいんだ!」と、勇気をもることができた参加者も多かったのでは…!?

授業をつくる上で大切にしたいこと

学習指導要領の確認

→ 行間を読み、位置付けを考える



気付いたことや学んだことは学習指導要領に書き込んでおきます。

③ 聴き合う会 (グループごとの協議)

鳴川先生と野口先生の話をもととして、日々の授業づくりや授業の振り返りで悩んでいることや課題に感じていることを話し合いました。校種や教職年数が異なるグループ構成になっており、それぞれの年代で感じている悩みの違いに気付いたり、理科の授業において大切にしたいことを再確認したりと、グループごとに議論を深めていました。そして何より、この場で自分の思いを赤裸々に語り、分かってもらえる仲間ができたことが大きな財産になったことと思います!

みんなで福島の、いや、全国の科学教育を盛り上げていきましょう!!

